

光葉ワーキングクラブメールマガジン



<2023年11月号>

197号 2023.11.01 配信

この数年間、新型コロナウイルス感染症による制約の中で、通信技術を活用したコミュニケーションを指すICT(Information and Communication Technology)の進展には驚くべきものがあります。それに対応して直接対面でのコミュニケーションをとることの大切さを改めて実感しています。

今後、仕事や様々な活動においてICTスキルが必要とされますが、相手や状況に応じて柔軟な対応ができるスキルを身につけ、活用できるようにしたいと思います。 (『食』関連ネットワーク)

■同窓会だより

◇第31回 秋桜祭 テーマ「START」 11月11日(土)・12日(日) 10:00~16:00
お誘いあわせのうえぜひご来場ください!

☆3号館1階にて展示と販売

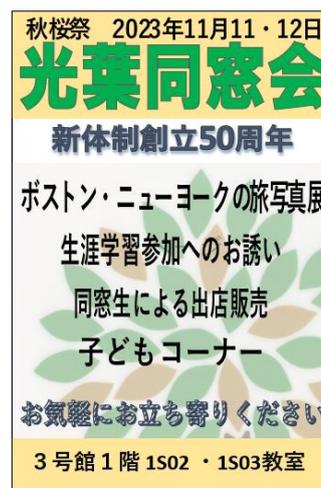
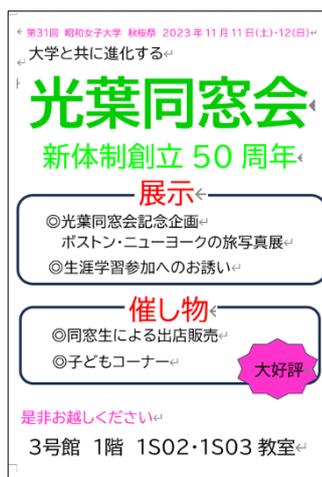
- ・光葉同窓会新体制創立50年の歩み
- ・「ボストン・ニューヨークの旅」写真展
- ・生涯学習参加へのお誘い
- ・同窓生による出店販売
- ・子どもコーナー

☆YouTube

「会長による同窓生ゆかりの学内紹介動画」

☆Instagram s.cosmos_swu

リール動画と写真を投稿



◇光葉ワーキングネットワーク

10月7日に今年度初のミーティングを行い、参加者14名で「ワーキングネットワークのこれから」について意見交換をしました。今年度内に2回目も行う予定です。(磯邊まみか)

◇生涯学習の参加者募集中! お申し込みについては、光葉同窓会報101号をご覧ください。

- ・講演会「戦後日本のヤミ市表象 一長谷川町子・手塚治虫・梶原一騎」

日時: 11月25日(土)13:00~14:00

講師: 山田夏樹(昭和女子大学日本語日本文学科専任講師)|

- ・お正月飾り手作り教室(アーティフィシャルフラワー使用)

日時: 12月2日(土)13:00~15:00

講師: 三宅知子(ハンドメイドサロン「ハーモニー」主宰)



お正月飾りの
イメージ写真

◇支部会開催

- ・11月18日(土) 奈良県支部
- ・11月20日(月) 福岡県支部
- ・11月25日(土) 京都府滋賀県支部
- ・11月26日(日) 広島県支部

■広げよう光の葉

吉田 忍さん

1992年 大学院英米文学専攻博士前期課程修了

「光を求め、人生を紡ぐ：多文化社会での挑戦と成長」

昭和女子大学卒業後、都市銀行でのキャリアをスタートさせましたが、さらに文学の知識を深めたいという思いが再燃し、母校の大学院英米文学専攻博士前期課程へ入学する決心をしました。その後、さらに博士後期課程へ進んで1年が経った頃、米国シカゴへ行く機会が訪れたことで、私の人生の新しい章が始まりました。当初は、シカゴにある大学院の授業に出席していましたが、多様な文化が融合する都市で様々なことを体験しているうちに、これまでの学びの枠を超えた新しい挑戦をしたいと思うようになりました。

1999年、故小渕恵三元首相が米国を訪れた際、シカゴ総領事館でロジスティック業務に携わる機会に恵まれ、その後官房班の補助職に就きました。さらに日本経済新聞社のシカゴ支局から編集アシスタントのポジションをいただき、これまでの経験とは全く異なる分野の一步を踏み出しました。在職中に得た多くの教訓の中で、2001年のアメリカ同時多発テロ事件は、私の人生観、特に人間性に対する理解に深い影響を与えました。悲劇的な出来事が目の前で繰り広げられ、恐怖と不安が周囲に満ちる状況で、私は人々の精神力の強さと結束の力を目の当たりにしました。人間が直面する最も厳しい試練の中でもお互いに助け合い、支え合うことの大切さを強く認識させるものでした。子供が生まれ、ボストンに引っ越したことが私にとって価値観を見つめ直す大きな契機となりました。10年以上にわたり、ホームレスシェルターのデイケアセンターで乳幼児をサポートするボランティア活動に参加してきました。また、全米初の女性専用シェルターで食事の準備と食料品の配布を通じて、生活に困難を抱える女性たちの支援もしています。これらの活動は、私自身の成長を促すだけでなく、コミュニティに対する強い責任感を育む価値のある経験となっています。

2022年、子育てが一段落したことを機に、私はバイリンガル教育に焦点を当てた保育園で新たな挑戦を始め、保育士としてのキャリアをスタートさせました。幼児教育の領域での仕事を選択したとき、創立者人見圓吉先生の「愛と理解と調和」という教育理念がふと心に浮かんできました。愛に満ちた環境で育つ子どもたちは安心して成長し、自分の感情や思考を理解されることで、自分の個性を大切に、自信を持つことができるのです。調和は、お互いの違いを受け入れ、協調する能力を育成する上で欠かせない要素です。

振り返ると、私の人生の重要な節目には、昭和女子大学の深遠な信念が常に息づいていました。それは学問的な知識を超えたもので、人としての成長を促し、社会に対する深い洞察を育んでくれるものです。学生時代に学んだ「誠実さ」「礼儀正しさ」そして「奉仕の心」は、真の人間性を築くための基盤となる美德だと思います。これらの価値は、私たちの内に秘められた無限の可能性を引き出して様々な問題に対処する大いなる力となります。

「世の光」となる旅は終わることなく、絶えまない探求とともに続いていきます。その光が消えることなく、いつまでも輝き続けるように願いながら。【End】



2023年9月13日、昭和ボストンにてボストン支部の皆さんと
右が吉田さん(ボストン支部長)

メールマガジンを読んでのご感想、ご意見をお寄せください